



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ヤマノホールディングス

コード番号 7571 URL <http://www.yamano-hd.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼最高執行責任者 (氏名) 山野 義友

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理副本部長兼財務経理部長 (氏名) 岡田 充弘

TEL 03-3376-7878

四半期報告書提出予定日 平成28年2月10日

配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	16,715	△2.1	114	119.0	99	382.5	45	△75.4
27年3月期第3四半期	17,074	△6.2	52	△85.5	20	△93.9	186	△7.2

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 59百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 △15百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	1.34	—
27年3月期第3四半期	5.40	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	14,894	2,404	7.1
27年3月期	11,288	2,610	11.0

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 1,064百万円 27年3月期 1,241百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
28年3月期	—	0.00	—		
28年3月期(予想)				2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	24,000	3.6	230	98.3	200	141.0	130	△27.0

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
 新規 2社 (社名) 株式会社吉利、株式会社すずのき、除外 1社 (社名)
 (注)詳細は、4ページの2. サマリー情報(注記事項)に関する事項「(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期3Q	34,497,058 株	27年3月期	34,497,058 株
28年3月期3Q	456,866 株	27年3月期	15,966 株
28年3月期3Q	34,408,903 株	27年3月期3Q	34,481,092 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表及び財務諸表の監査手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等につきましては、2ページ「1. 当四半期の業績等に関する定性的情報」(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。
- ・当社は、決算補足説明資料を速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における国内経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策を背景に企業収益や雇用・所得環境の改善が見られ、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、円安の進行による物価上昇や海外景気の下振れリスク等により、先行きにつきましては依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、グループの共通戦略として掲げている「ソフトと価値の提供」に基づき、各事業における収益力の向上に引き続き取り組むとともに、グループ全体の成長戦略としてM&Aを本格的に推進し、当四半期は卸売事業で新規子会社1社（株式会社吉利）が増加、また和装宝飾事業においても1社（株式会社すずのき）を子会社化いたしました。

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高につきましては、卸売事業での新規子会社設立及び和装小物卸売事業の事業譲受による売上高の増加がありました。アパレル事業の事業譲渡や暖冬によるウィンター関連商品の売上低迷等の影響により、167億15百万円（前年同四半期比2.1%減）となりました。一方収益面では、事業の集中と選択を推進する中で管理コストの削減を図るとともに、経営資源の配分見直しを行い、営業コストの圧縮にも努め、営業利益は1億14百万円（前年同四半期比119.0%増）、経常利益は99百万円（前年同四半期比382.5%増）となりましたが、前第3四半期連結会計年度の子会社同士の合併に伴う非支配株主持分の調整がなくなったこともあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は45百万円（前年同四半期比75.4%減）となりました。

セグメントの業績は、以下のとおりであります。

1) 「美容事業」

美容事業では、当四半期において「アンチエイジングサロン」への店舗リニューアルを3店舗実施するほか、ブランド統一による採用・販促効果の向上を図るため、店舗名を「My jStyle by Yamano」70店舗及び「PLAZA HAIR by Yamano」12店舗に統合し、「Yamano」ブランドの屋号導入を実施いたしました。なお、平成27年12月31日現在の店舗数は、直営102店舗、F Cは6店舗となっております。

美容事業においては、競合店の飽和状態が続く厳しい事業環境の下で、他社との差別化サービスメニューとして着付けサービス強化を推進しており、浴衣着付けサービス売上は前年同期比139.3%、また成人式着付けサービスの予約件数は前年比116.6%と伸長し、着付けサービス強化による売上高獲得は順調に推移しております。しかしながら、業界での店舗間競争の激化が続く中で集客数が減少し、売上高は17億90百万円（前年同四半期比5.0%減）となり、セグメント利益44百万円（前年同四半期比48.4%減）となりました。

2) 「スポーツ事業」

スポーツ事業では、専門店ならではの提案力強化の施策としてメンテナンスサービスの商品化、体験イベントサービスの開催等を推進しております。当四半期では1店舗閉鎖、季節店出店1店舗があり、平成27年12月31日現在の店舗数は17店舗となっております。

H&B（ヘルス・アンド・ビューティ）関連では前年同期比110.4%、アウトドア関連では前年同期比108.2%と好調な販売推移となり、また、昨年10月に中国地方へ出店した季節店での販売は計画を上回る推移となりましたが、記録的な暖冬の影響により、主力であるウィンター関連販売が前年同期比83.9%と苦戦いたしました。この結果、売上高は27億66百万円（前年同四半期比8.0%減）、セグメント損失は99百万円（前年同四半期はセグメント損失15百万円）となりました。

3) 「DSM事業」

DSM事業では、お買い物以外の顧客ニーズに応える催事を継続的に開催する一方で、各ショップにて洋装品を中心としたミニ展示会を開催し、商品提案の場を広げる施策を行っております。当四半期では事業所6拠点の閉鎖があり、平成27年12月31日現在の店舗数は74店舗となっております。

DSM事業では事業所数・販売員の減少に伴う売上高減少への対策として、販売員紹介キャンペーンを実施するとともに、事業所統合による固定費の削減や販促費用の見直し等に努めています。この結果、売上高は19億35百万円（前年同四半期比9.5%減）となり、セグメント利益は63百万円（前年同四半期比1.3%増）となりました。

4) 「和装宝飾事業」

和装宝飾事業では、平成27年6月1日付でアパレル事業を事業譲渡し、また平成27年11月20日付で和装・毛皮小売事業を営む株式会社すずのきが連結子会社となったこと等により、平成27年12月31日現在の店舗数は、和装他小売店舗が98店舗、宝飾小売店舗が20店舗となっております。なお、新規子会社となった株式会社すずのきの業績は第4四半期からの取り込みとなり、当第3四半期連結会計期間のセグメント業績には含まれておりません。

和装宝飾事業の売上高は、アパレル事業譲渡による影響等により、47億75百万円（前年同四半期比3.9%減）となりましたが、従来からの和装事業戦略である①前楽結び着方教室、②着る機会の提供、③お手入れサービスの3施策の推進及び人材育成への取り組み強化に努めるほか、移転リニューアルを3店舗で実施したことにより和装小売では売上高前年同期比104.9%と堅調に推移しており、また、アパレル事業の譲渡に伴う経営資源の配分の見直しによって収益力が向上したため、セグメント利益は1億1百万円（前年同四半期比132.6%増）の増益となりました。

5) 「卸売事業」

卸売事業では、主力である百貨店取引が回復傾向にあるとともに、和装小物卸売事業の株式会社吉利が新たに連結子会社として加わったことにより、売上高は49億52百万円（前年同四半期比5.9%増）となりました。

収益面では、新規子会社による収益増加のほか、販売費の見直し等によるコスト削減に努め、セグメント利益は54百万円（前年同四半期はセグメント損失1億円）となりました。

6) 「その他の事業」

その他の事業の事業内容は、主に堀田（上海）貿易有限公司の意匠擦糸の販売、株式会社ヤマノセイビングの前払式特定取引業による手数料収益であります。

その他の事業の売上高は、意匠擦糸販売が好調に推移し、4億95百万円（前年同四半期比24.0%増）となり、セグメント損失6百万円（前年同四半期はセグメント損失9百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ36億6百万円増加し148億94百万円となりました。これは主に、現金及び預金が11億16百万円増加、受取手形及び売掛金が5億26百万円増加、商品及び製品が11億51百万円増加、敷金及び保証金が3億92百万円増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比べ38億12百万円増加し124億89百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が15億73百万円増加、短期借入金が6億51百万円増加、未払金が2億82百万円増加、前受金が6億6百万円増加、長期借入金が4億22百万円増加したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ2億6百万円減少し24億4百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益45百万円、剰余金の配当68百万円、自己株式の取得49百万円、会計方針変更により利益剰余金が1億4百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期の通期業績予想につきましては、平成27年11月13日付「平成28年3月期第2四半期決算短信」にて公表した内容から変更はありません。

今後、業績予想に変更の必要が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる結果になる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第2四半期連結会計期間より、当社連結子会社である堀田丸正株式会社が新たに設立した株式会社吉利(商号を株式会社吉利事業譲受準備会社から変更)を連結の範囲に含めております。

また、当第3四半期連結会計期間より、株式会社すずのきの株式を取得したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)
等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(3)、連結会計基準第44-5項(3)及び事業分離等会計基準第57-4項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、過去の期間のすべてに新たな会計方針を遡及適用した場合の第1四半期連結会計期間の期首時点の累積的影響額を資本剰余金及び利益剰余金に加減しております。この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、のれん105,850千円及び資本剰余金1,259千円が減少するとともに、利益剰余金が104,590千円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1,850千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,008,821	3,125,232
受取手形及び売掛金	2,450,795	2,977,728
電子記録債権	74,041	174,275
商品及び製品	3,015,518	4,167,128
仕掛品	23,035	18,299
原材料及び貯蔵品	53,366	90,994
繰延税金資産	39,970	39,970
その他	326,205	351,537
貸倒引当金	△41,608	△60,106
流動資産合計	7,950,147	10,885,061
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,690,806	1,948,083
減価償却累計額	△1,172,915	△1,341,293
建物及び構築物(純額)	517,890	606,789
機械装置及び運搬具	14,253	13,873
減価償却累計額	△13,748	△13,430
機械装置及び運搬具(純額)	504	442
工具、器具及び備品	442,149	472,140
減価償却累計額	△398,764	△411,244
工具、器具及び備品(純額)	43,385	60,896
土地	727,521	743,633
リース資産	64,472	74,553
減価償却累計額	△27,026	△37,248
リース資産(純額)	37,445	37,304
有形固定資産合計	1,326,748	1,449,066
無形固定資産		
のれん	137,837	270,076
その他	136,375	112,856
無形固定資産合計	274,212	382,932
投資その他の資産		
投資有価証券	165,876	180,514
長期貸付金	10,842	78,703
繰延税金資産	95,162	97,166
敷金及び保証金	1,234,276	1,626,790
その他	393,629	323,374
貸倒引当金	△162,834	△129,212
投資その他の資産合計	1,736,953	2,177,337
固定資産合計	3,337,914	4,009,336
資産合計	11,288,062	14,894,398

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,389,382	3,962,489
電子記録債務	558,944	669,129
短期借入金	290,000	941,860
1年内償還予定の社債	-	36,400
1年内返済予定の長期借入金	312,680	359,875
未払金	536,730	818,816
前受金	1,222,832	1,829,386
未払法人税等	54,888	53,181
賞与引当金	10,000	27,238
返品調整引当金	13,495	41,718
ポイント引当金	52,793	54,055
株主優待引当金	4,041	4,041
資産除去債務	10,722	10,510
その他	532,788	412,949
流動負債合計	5,989,299	9,221,653
固定負債		
社債	-	110,200
長期借入金	2,071,300	2,494,287
長期末払金	223,257	184,054
繰延税金負債	29,175	41,658
資産除去債務	235,392	329,014
その他	128,955	109,095
固定負債合計	2,688,079	3,268,309
負債合計	8,677,379	12,489,962
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,259	-
利益剰余金	1,111,229	983,630
自己株式	△3,019	△53,008
株主資本合計	1,209,470	1,030,622
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,754	20,920
為替換算調整勘定	13,751	12,718
その他の包括利益累計額合計	32,506	33,638
非支配株主持分	1,368,705	1,340,174
純資産合計	2,610,682	2,404,435
負債純資産合計	11,288,062	14,894,398

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	17,074,139	16,715,716
売上原価	10,066,000	9,852,246
売上総利益	7,008,139	6,863,470
販売費及び一般管理費	6,955,813	6,748,887
営業利益	52,325	114,582
営業外収益		
受取利息	4,639	4,910
受取地代家賃	10,122	9,011
協賛金収入	6,945	6,514
負ののれん償却額	338	-
その他	13,390	21,458
営業外収益合計	35,436	41,895
営業外費用		
支払利息	33,042	34,533
手形売却損	1,585	1,230
支払手数料	10,320	1,500
その他	22,135	19,448
営業外費用合計	67,084	56,712
経常利益	20,677	99,765
特別利益		
固定資産売却益	4,954	-
段階取得に係る差益	-	3,999
投資有価証券売却益	-	20,870
事業譲渡益	-	7,890
負ののれん発生益	20,158	-
特別利益合計	25,112	32,761
特別損失		
固定資産除却損	2,201	2,383
減損損失	5,119	967
店舗閉鎖損失	10,432	7,781
その他	6,625	369
特別損失合計	24,378	11,503
税金等調整前四半期純利益	21,411	121,024
法人税、住民税及び事業税	46,813	66,584
法人税等調整額	△1,510	17
法人税等合計	45,303	66,601
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△23,891	54,423
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△210,229	8,493
親会社株主に帰属する四半期純利益	186,337	45,930

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△23,891	54,423
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,628	6,920
為替換算調整勘定	1,403	△1,854
その他の包括利益合計	8,032	5,066
四半期包括利益	△15,859	59,489
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	191,887	47,060
非支配株主に係る四半期包括利益	△207,747	12,428

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月15日 取締役会	普通株式	51,721	1.50	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月15日 取締役会	普通株式	68,962	2.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成27年11月13日開催の取締役会決議に基づき、自己株式440,900株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が49,989千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が53,008千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	美容	スポーツ	D S M	和装宝飾	卸売
売上高					
外部顧客への売上高	1,885,409	3,008,520	2,138,756	4,967,731	4,674,571
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	47,356
計	1,885,409	3,008,520	2,138,756	4,967,731	4,721,927
セグメント利益又は損失(△)	86,525	△15,767	63,060	43,810	△100,537

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	計				
売上高					
外部顧客への売上高	16,674,989	399,149	17,074,139	—	17,074,139
セグメント間の内部売上高 又は振替高	47,356	35,468	82,824	△82,824	—
計	16,722,345	434,618	17,156,963	△82,824	17,074,139
セグメント利益又は損失(△)	77,091	△9,302	67,789	△15,463	52,325

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである金融事業及びその他事業等を含んでおりません。

2 セグメント利益の調整額△15,463千円には、セグメント間取引消去6,716千円、のれんの償却額△37,002千円、各報告セグメントに配分していない全社費用13,106千円及び棚卸資産の調整額1,715千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	美容	スポーツ	D S M	和装宝飾	卸売	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	—	—	5,119	—	—	—	5,119

(重要な負ののれん発生益)

当第3四半期連結累計期間において、当社の連結子会社である堀田丸正株式会社より、HMリテーグス株式会社の株式を取得し、当社の100%子会社としたことに伴い、「和装宝飾」セグメントにおいて負ののれん発生益を20,136千円計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	美容	スポーツ	D S M	和装宝飾	卸売
売上高					
外部顧客への売上高	1,790,394	2,766,859	1,935,648	4,775,798	4,952,011
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	57,776
計	1,790,394	2,766,859	1,935,648	4,775,798	5,009,788
セグメント利益又は損失(△)	44,614	△99,208	63,904	101,912	54,062

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	計				
売上高					
外部顧客への売上高	16,220,713	495,003	16,715,716	—	16,715,716
セグメント間の内部売上高 又は振替高	57,776	33,332	91,109	△91,109	—
計	16,278,489	528,336	16,806,826	△91,109	16,715,716
セグメント利益又は損失(△)	165,285	△6,824	158,461	△43,878	114,582

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである金融事業及びその他事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△43,878千円には、セグメント間取引消去6,716千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△42,974千円及び棚卸資産の調整額△7,620千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	美容	スポーツ	D S M	和装宝飾	卸売	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	—	—	967	—	—	—	967

(のれんの金額の重要な変動)

企業結合会計基準等の適用により、企業結合会計基準第58-2項(3)、連結会計基準第44-5項(3)及び事業分離等会計基準第57-4項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、過去の期間のすべてに新たな会計方針を遡及適用した場合の第1四半期連結会計期間の期首時点の累積的影響額を資本剰余金及び利益剰余金に加減しております。この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、のれんが105,850千円減少しております。

当第3四半期連結累計期間において、株式会社すずのきの株式を取得し、当社の子会社としたことに伴い、「和装宝飾事業」セグメントにおいてのれんが246,090千円増加しております。